

1 題材 はね「小」

- 2 目標
- 「はね」の筆使いを理解し、丁寧に書くことができる。
 - 自分のめあてに沿って学習に取り組むことができ、硬筆の時や日常の生活でも正しい「はね」を意識して書こうとする気持ちをもつことができる。

3 指導計画(全3時間)

第1時 「はね」の筆使いを知り、丁寧に書く。

第2時 「はね」の筆使いに注意して清書し、硬筆でも「はね」に注意して書く。

(本時)

第3時 「はね」を含む文字でゲームを楽しんだり、詩を視写したりする。

4 指導上の立場

- 中学年における書写の指導では、「文字の組み立て方に注意して、文字の形を整えて書くこと」「文字の大きさや配列に注意して書くこと」「毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組み立て方に注意しながら文字の形を整えて書くこと」がねらいである。

特に第3学年の書写は毛筆の基本的な筆使いの学習が中心となる。これまでに「横画」「折れ」「はらい」の筆使いを学習してきた。「はね」の筆使いは、毛筆独特の穂先の使い方、つまり書く際の力の入れ加減を習得することが必要となり、毛筆の特性を理解するためにも重要な題材であると思われる。

- 本学級の児童は、書写の学習に興味深く取り組み、筆を使うことに興味をもって
いる児童が多い。上手に字が書けたり、教師や友達に認められたりすることに喜び
を感じている児童も多い。しかし、準備が面倒であることや墨で服が汚れるなどの
理由から、書写の時間をあまりおもしろくないと感じている児童もいる。

また、日常生活においては、速く書こうとするため乱雑な文字になってしまう児童や書く姿勢が長続きしない児童がいるなど、書写の時間に学習したことが十分に生かされていない面もある。

事態調査をしてみると、硬筆では「小」という字の「止めてはねる」ができて
いる児童は32/35、はねの方向に気をつけて書いている児童は13/35であった。

そこで、「はね」の筆使いや「はね」の向きや長さなどの指導を通して、一字一
字を正しく丁寧に書くことの大切さを学ばせたい。さらに、まとめて硬筆の学習を
関連させることにより、日常生活でも字形を整えて書こうとする態度を養いたい。

- 本校の研究テーマ「生きる力を育む書写学習のあり方 ― すすんで取り組み、書
く喜びのもてる学習をめざして ―」に迫るために、児童が自分の課題に気づき、
その解決に向かって主体的に活動することで達成感を味わうことができるようにし
たい。さらに、楽しく取り組むことで、次の学習の意欲につながるようにしたいと
考えた。

本時では、前時につかんだ個々のめあてを発表し合う中で、一人ひとりのめあて
を具体化していきたい。めあてに沿った練習のための手だてとして、「はね」の長さ
や向きを考えて書くための練習用紙を準備する。さらに、個に応じた多様な練習の
場として、水書用紙、水書黒板、分解文字のコーナーを設置しておく。また、T1
とT2が連携を図り、個に応じた指導をすることで、個々の能力をより一層引き出
していきたい。

各自がめあてに沿って練習方法を選び、主体的に取り組んだり、自己評価を繰り
返したりすることによって、上達していく楽しさを味わわせたい。また、学習のま
とめの段階では、一人ひとりのめあてに着目して、自分や友達の伸びを認め合う場
をもつことにより、書く喜びを味わわせたい。

さらに、本時の喜びが、次時の日常化の学習に生かされるようにしたい。

5 本時案（第2時）

目標	○ 「はね」に注意して丁寧に書くことができる。 ○ めあてをもとに自己評価や相互評価をし、自分や友達の伸びに気付くことができる。			
学 習 活 動		教 師 の 支 援		準 備
つ か む	1 めあてをもつ。	T 1	T 2	学習カード 手本 ビデオ
		○ 前時に決めた個々のめあてを発表させることにより、常にめあてを意識して練習に取り組むことができるようにする。	○ 個々のめあてを受け、前時に学習した「小」の書き方の要点を確認する。	
「はね」の向きや長さに注意して書こう。				
す す め る	2 練習する。	○ めあてに沿った練習ができるように、練習用紙、水書用紙を用意する。 ○ 全体に目を配り、個々の良い所や伸びた所を称揚する。	○ 「はね」の筆使いに不安のある児童や、筆運びが定まりにくい字形が整いにくい児童を中心に、手を持って個別指導をし、自信につながるようにする。	練習用紙 水書用紙 水書黒板 分解文字 半紙
確 か め る	3 まとめをする。	○ 自分のめあてを再確認させることにより、整った文字を書きたいという意欲を高めてから、まとめ書きをすることができるようにする。 ○ 前時と本時のまとめ書きを比較し、自己評価や相互評価することにより、充実感や喜びを味わうことができるようにする。 ○ 学習したことを硬筆で練習することにより、日常化を図る。	○ 書写体操をすることで正しい姿勢をすることができるようにする。	学習カード
	4 次時の学習を知る。	○ 次時は、書写クイズや詩の視写をすることを知らせる。	○ めあてに沿って取り組み、伸びた所をしっかりと称揚し、どの児童にも充実感がもてるように配慮する。	ワークシート
評価	○ 「はね」の向きや長さに気を付けて、丁寧に書くことができたか。 ○ 自分や友達の伸びを見つけることができたか。			

学習カード
手本
ビデオ

練習用紙
水書用紙
水書黒板
分解文字
半紙

学習カード

ワークシート